

第272回（第21期第6回）

島根県内水面漁場管理委員会

日 時：令和4年10月21日（金） 14時00分～15時05分

場 所：労働会館 201中会議室

出席委員の氏名：高原 輝彦（1番）、林 能伸（2番）、藤原 國利（3番）、門脇 幹男（5番）、玉田 一（6番）、柳原 知朗（7番）、嶺田 直樹（8番）、錦織 滋（9番）、二本木 俊二（10番）

欠席委員の氏名：高橋 泰子（4番）

1 開 催

- ・事務局長が開会を宣言。
- ・委員9名出席（高橋委員欠席）により委員会が成立していることを報告。

2 挨拶

- ・門協会長挨拶（省略）
- ・安木次長挨拶（省略）

3 議事

- （1）島根県内水面漁場計画について（諮問）
一島根県内水面漁場計画案に関する公聴会一
- （2）令和4年度全国内水面漁場管理委員会提案行動に対する回答について（報告）
- （3）コイヘルペスウイルス病について（報告）

4 議事の顛末

門協会長 それでは、議事に入ります。規定により、議事録署名者に6番、玉田委員、7番、柳原委員を指名します。（「はい」と呼ぶ者あり）

門協会長 議題1、島根県内水面漁場計画について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

門協会長 事務局の説明に対して、質問等ございませんか。

質問等ございませんようですので、審議を一旦中断し公聴会に移りたいと思いますので、事務局は準備をお願いします。

【公聴会】

門協会長 公聴会を開催します。

公述人がいないようですので公聴会を終了します。

門協会長 それでは、議題1を再開します。委員の皆様、質問等はありませんか。

ご質問がないようですので、漁場計画案について異議ない旨答申することとします。

議題2、令和4年度全国内水面漁場管理委員会提案行動に対する回答について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

門協会長 事務局の説明に対して質問等はありませんか。

それでは、議題2については、以上で終了させていただきます。

議題3、コイヘルペスウイルス病について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

門協会長 事務局の説明に対して質問等はありませんか。高原委員、どうぞ。

高原委員 個人宅の池でコイヘルペスが確認されたとのことですが、原因は分かっていますか。

木下主任 個人宅の池にウイルスが侵入したか水を引いている河川にウイルスが侵入したかのどちらかになるが、明確な経路は不明です。

門協会長 ほかにありませんか。それでは、議題3については、以上で終了させていただきます。

門協会長 その他議題についてです。各河川漁協の委員さんより「今年度のアユ漁業・遊漁の様子について」報告していただきます。

藤原委員（神戸川漁業協同組合） 何十年も住んでいる人が、こんなに遡上が良いことは初めてと言っていた。4月中旬には、佐田町の下流から数十キロ地点にアユの群れが光って見えた。釣果が良く松江方面からも遊漁者が多く来ていた。お叱りは、一人もなかった。まだ、上流に多くのアユが残っているようなので、それらが産卵して来年も多く遡上してくれることを期待している。

玉田委員（三隅漁業協同組合） 3月から4月にかけてあちこちで遡上が良いと連絡があった。解禁日は、70~80人程度遊漁者がいた。夏場でもコンスタントに釣れる。数が多いのでサイズは若干小さい気がする。自主的な禁漁区を6年前から設定しているため、落ちアユを狙う人から文句を言われていたが、このような結果ができれば、禁漁区を設定して良かったと言える。

嶺田委員（高津川漁業協同組合） 目視では、遡上が多いように思わなかったが、解禁日のパトロールの後に2時間程度、コロガシをしたら、約50匹程度釣れた。これは、何十年ぶりの釣果。遊漁者も多く今年度は、黒字決算になるのでないかと期待している。今年度も9月半ば以降に増水したため、親がある程度残ったと思うので、来年度の遡上にも期

待している。今までと同様に、来年度も10月10日からの自主禁漁を続けて親を守るようにしていく。

錦織委員（斐伊川漁業協同組合） 前年同様の放流をした。濁水のためコケのつきが非常に悪くアユの漁獲量も良くなかった。それと、昨年度に災害があり、河川工事の関係でアユの漁獲量の減少にも影響したと考えている。また、若干であるが尾原ダムでアユの再生産を確認している。今年度から導入した釣りチケ（電子遊漁券）による販売枚数は17件であった。

二本木委員（江川漁業協同組合） 江川も他河川と同様に遡上が良かった。浜原ダムの魚道で約10年前から遡上調査を行っている。10年前が約40万尾の遡上があり、今年度は約130万尾の遡上があった。ここ3、4年は何百から何千尾の遡上だった。遡上が少ない年でも放流100%の出羽川にある程度遊漁者がいる。今年度は、上流から下流（濁川、八戸川）の全河川で調子が良い。特に濁川では、100匹釣った組合員がいた。6月中旬の早い段階から22から23センチのアユが釣れる状況で成長も良かった。資源量が良い年は、サイズにばらつきがあり、小さいアユも目立つ。また、種苗センターの卵も地場産ほぼ100%で対応できている。

門協会長 各河川の報告ありがとうございます。次に内水面浅海部福井科長より「2022年度のアユ遡上状況について」の説明していただきます。

〔水産技術センター説明〕

門協会長 説明ありがとうございました。水産技術センターの説明に対して何か質問等ございませんか。

藤原委員 アユの稚魚が海で餌を食べると思うが、餌は何を食べているの。

福井科長 よく分かっていない。島根県はアユの稚魚の餌について現時点で調査をしていないが、鳥取県は海のアユの稚魚を調べている。主にカイアシ類の幼生を食べているのではないかと考えられている。

二本木委員 仔魚の流下が遅いと遡上が良いとのことですが、理由は分かりますか。

福井科長 理由を調べるための調査方法を検討中。鳥取県は、波がない穏やかな水域がありそこで調査できるが、島根県は開放的な海岸が多いので時化ると非常に危険な場所が多いため方法を検討中です。

高原委員 アユは母川回帰するのか

福井科長 サケの様に必ず戻るものでない。流下して海岸で育ち遡上期に河口付近に集まるが流れの大きい川の方に集まり遡上する傾向があり、結果的に母川回帰のような状況になる。

高原委員 そうであれば、年によって産まれた河川と違う河川に多く遡上することもあるのか。

福井科長 河川の水量が多いなど遡上を誘引するようなことがあれば、違う河川に多く遡上することもある。

高原委員 説明の中で増水等による漁獲圧の減少が資源回復に影響しているのではないかと説明があったが、コロナの影響で人が来なくなった等の影響は考えられないのか。

福井科長 コロナの影響は、漁業の方であったと考えている。去年も今年も増水があり、漁獲圧が減少していることもあるが、アユは高級食材のため、料亭等の会食が減り需要がなくなっている。そのため、今年の6月に採捕したアユを売り切らない漁協もあると聞いている。漁獲しても売れない状況のため、漁獲を控えているなどの影響があると考えている。

門協会長 他に質問はありませんか。それでは、議題3については、以上で終了させていただきます。全体を通して何か質問はありませんか。

柳原委員 全体を通しての質問ではないが、新聞で国土交通省が「シジミの調査」を行っている記事を見た。国が単独で行っている調査であるが、県として各漁協等にこのような情報を共有しているか。

若林部長 各漁協へ情報の共有等をしていないので、今後は共有等をしていく。

門協会長 他に質問はありませんか。

二本木委員 法改正に伴い、内水面漁業調整規則が島根県漁業調整規則に一本化になった。注意喚起等をする看板が内水面漁業調整規則のまま変更されていないことや増水等で看板自体が流されている。そのため看板の設置の検討をお願いしたい。

事務局長 予算等を含めて検討する。

門協会長 ほかにございませんか。それでは、その他議題については、以上で終了させていただきます。それでは、次回の委員会の開催予定はどうなっていますか。

事務局長 次回でございませけれども、遊漁規則の変更・制定及び増殖実績などを報告させていただきたいというふうに思っております。来年の2月に開催を予定しております。以上でございます。

門協会長 それでは、事務局が用意した議事は全て終了しました。

委員の皆さんから何かございませんか。

それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了いたします。ありがとうございました。

県職員及び事務局員として出席した者の職・氏名

農 林 水 産 部	次 長	安木 茂
農 林 水 産 部 水 産 課	課 長	染川 洋
	企 画 員	渡邊 朋英
	主 任	佐々木 雄基
沿 岸 漁 業 振 興 課	主 任	木下 光
東部農林水産振興センター	課 長	爲石 雄司
西部農林水産振興センター	課 長	曾田 一志
水 産 技 術 セ ン タ ー	部 長	若林 英人
	科 長	福井 克也
島根県内水面漁場管理委員会	事務局長	伊藤 博理

主任書記 平松 大介

令和4年10月21日

議長 門脇 幹男

議事録署名者 玉田 一

議事録署名者 柳原 知朗